- 日 時 令和2年7月6日（月）午後3時から4時10分
- 場 所 湖南省共同福祉施設 2階 大ホール
- 出席者 委員19名（欠席 2名） 事務局4名
- 議 事
 - 報告事項
 - 湖南省コミュニティバス高齢者無料乗車券交付事業について
 - 湖南省コミュニティバス運行実績について
 - 協議事項
 - 予約制小型乗合自動車運行事業（案）について
 - その他

【開会】	会長あいさつ （省略）
【議事】 （事務局）	<p>それでは早速議事に入っていきたいと思います。</p> <p>湖南省地域公共交通会議設置要綱第6条に、「会長は、会議を招集し、その議長となる」とありますので、議事の進行については、会長よろしくお願いいたします。</p>
（会長）	<p>それでは、ただいま司会の方から案内がございました通り、「議事の進行につきましては、会長が当たる」とされておりますので、委員の皆様のご協力をいただきまして、議事を進めて参りたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、進行させていただきます。</p> <p>まず報告事項といたしまして、一つ目の「コミュニティバス高齢者無料乗車券交付事業について」につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
（事務局）	資料に基づき事務局より説明 （省略）
（会長）	それではただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたら、挙手をいただきました上、ご発言をお願いしたいと思います。どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。
（委員）	<p>私、湖南省の障害児者団体連絡協議会から、利用者ということで出席させてもらっています。</p> <p>まず、市役所の担当の方々、それから運行されておられる滋賀バス株</p>

式会社の方々には、コロナウイルスで大変な中でも、私どもの場所をできるだけ守ろうということで、できるだけダイヤを動かさずに、危険を顧みず運行に尽力いただきまして、誠にありがとうございます。深く感謝しております。

そこで、今報告にありました、コミュニティバスの高齢者無料乗車券の事業ですけれども、私今までずっと自由に発言させてもらいましたけれども、私が選ばれています湖障連の中で、役員さんに意見をお聞きしました。そしたら、「今のところこの制度には反対だということを意見表明しろ」ということでしたので、これからその理由を申し上げます。

まず財源に想定されている運行費補助金ですね。これはどちらかと言いますと、優先利用として、施設整備の拡充や、利便性を高めるために車両数を増やすとか、そういうことに優先的にすべきであって、一部の人が、そういうことを先に優先すべきじゃないというのが一つの意見です。

もう一つとして、実際にこの高齢者の方が初めてバスに乗ってみられたら、おそらく「これ不便だろう」とか、「うまく使えないぞ」とかいうご意見が続出すると思うんです。設備を良くするまでに、このような制度を作ってしまうと、悪い印象ばかりが残ってしまうんじゃないかなという危惧があります。

同時に、もし利用者が増えればそれだけ収支を圧迫することになりますので、まだコロナで利用者が戻って来ていませんし、これが圧迫することによって減便とか、一般客への値上げとか、そういうことに長い目で見たら繋がらないかなっていうことを危惧します。

例えば甲賀市の場合なんかですと、これは決して高齢者無料制度のせいだけじゃありませんけども、減免して段々不便になっていってるという例もお聞きしております。残念なことです。

それでは、私たちとしては、どういうことを希望したいかと言いますと、年齢ではなく所得を基準にした割引制度をお願いしたいなということです。例えば、若い方でも通学をされてる方の中にも経済的に困ってる方がおられるわけですから、高齢者、障がい者といっても、所得水準はいろいろですから、なかなかやりにくいと思いますけども、考え方としましてはそういう方法を希望したいなと思います。

私も心配になりましたので、役員さんに聞いたんです。「今のところ、その中に障害者手帳を持ってる人が入ってないんですけどそれでよろしいですか」と聞いたんですが、今のところは、無料にして欲しいという希望は出さないというお返事でした。

ただ以前 10 何年前に、委員の方で障がい者の無料というのを、大きな

声でおっしゃった方がいるんですが、結局実現しなかったということがありまして、その時の理由としては「公平性を欠くんじゃないか」というふうに、市からの回答があったと議事録に残ってると思います。そういうことも考えて、希望しないというような立場です。

そういうことを申し上げた上で、ここから質問と要望なんです。この後に出てくるデマンド運行なんかは、きめ細かなもんなんで、ぜひ充実を希望しますということではあるんですが、昨年度1月ですね、この会議で、決して同意とか議決をしたわけじゃないんですが、その経緯については先ほどちょっと簡単にお話いただきましたけれども、その時の会議の権限っていうのはどうなんだろうなって、調整とかをするだけなのかなってちょっと疑問が残ります。議会の方が優先されるのはやむを得ないことなんですけども、ちょっといろいろ意見は聞いてはくださるんですけども、その辺の議論がちょっとしっくりいっていないなという気がします。多分このままで始めますとね、例えば利用者からは「使える時間帯を増やして欲しい」とか、「券の枚数を増やして欲しい」とか、「車内で販売して欲しい」とか、そういう要望が必ず出てくるんです。それを拒むと「市役所は不親切や」という意見が残るんです。始めるのは簡単なんですけど、財政なんかの事情でやめることになったら、ものすごく辞めた人が悪者にされてしましましてね、これ後々大変やなということを危惧しております。その辺の何か対策っていうのか、そういうお考えがあたりでしょうか。よろしくお願いします。

(会長) それでは事務局、回答をお願いします。

(事務局) ご意見ありがとうございます。

今いただきましたご意見の中で、こちらとしましては、30回という制限をかけていること、それからご利用の時間帯を9時台から4時台という利用の少ない時間帯の利用ということを考えておりまして、よく皆様から「空で走っているバスがもったいない」という話があることもございまして、その時間の設定としております。

それと経費の部分を考えまして、お1人様30回分、それ以上ご利用の場合は、回数券の方をご購入いただくというような形で対策を考えております。

こちらの中身につきましては、1月にご意見をいただきまして、いろいろなご意見を聞く中で、ご報告という形にはなるんですが、この公共交通会議の中で、路線の廃止だったり、バス停の増設であったり、路線の

新設であったり、料金設定、料金改定等につきましては、こちらの会議の中で承認をいただくということにはなるんですが、今回のこの部分については、「市の独自事業」という考え方をしております、高齢者の方に移動をスムーズに、いつもよりは多く移動していただいて、介護予防に繋がるような対応をとということで、今回考えさせていただいたということになりますので、ご理解いただけたらと思います。

(会長) 他にご意見等ございますか。

(委員) 私どもバス協会加盟の会員事業者様には、こういう免許返納された方へのご支援ということで、事業者様のご協力を得てこういうことはやっておるんですけども、制度そのものに反対っていうわけではないんですが、いろいろな要望を関係機関、或いは政治家等の方とお話させていただいております、その中で申し上げていることが1点ございます。

本来、この免許自主返納というのが始まったのは、どちらかというと、高齢者の方の事故防止の観点が非常に大きいかと思っています。事故防止をこういう制度に基づいて支援をして図っていくっていうのは、本末転倒という意見が会員の中では出ております。事故防止っていうのはそういうところから始めていくんじゃないで、ハード面、ソフト面、そういったところで事故防止を図っていくべきだという意見が、我々の会員さんの中では占めております。

従って、こういう制度に基づいて免許返納を促した結果、その方々が事故をしないっていうのを防ぐのは間接的な面がありますので、取り組みそのものは良いことではあるんですが、事故防止をする意味では、こういうことじゃなくて、いろんなハードの整備をきちっとやってみたり、免許をお持ちの方が更新の時に、きちっと本当に事故を起こさないかどうかということ、そこを見ていくことの方が大事だというふうに、我々の会員の中では意見としてはまとまっておりますので、少し余談ではあるんですけども、ここでご紹介をさせていただきます。

以上でございます。

(会長) それについて事務局、今後の取り組みが何かあれば、ソフト面ハード面というご指摘ですけども、必要ではないかということです。

(事務局) ハード面の部分については設備のことではないかなと思うんですが、今現在バス車両については、まだ更新できていない部分が課題となっております。

残っております。高齢者の方、障がい者の方がご利用いただきやすい車両、今回 1 台中古車両を入れさせていただいたんですが、まだまだ対応しきれてない部分がありますので、進めていきたいと思っております。

(委員) 私は、事務局の方にご回答を求めてるわけではなくて、実は国の方でいろいろ進めておられるサポカー補助金などの整備の方が本来大事ではないかということなんです。今現在国の方でも車の改善であるとか、免許の更新のこととか、いろいろ進めておられるので、そういうことを今後も進めていくべきではないかという意味でお話させていただきました。

(会長) それでは、こういった課題もあるということをご共有させていただきます。
他にご意見等ございましたらお願いします。

(委員) 1月の会議でも不正対策について話をしました。いろいろ上手に考えていただいているんですが、「名前を書く」とか、「上限がある」とかはいいと思います。「代理での交付ができます」これもやむを得ないと思います。ただ、例えば夫婦とかお友達での使い回しはできると思います。本人確認は、明らかにあやしい人が使ったとき、例えば運転手さんが注意とか本人確認をすることができるのかなんですね。これ甲賀市の方に聞いたんですが、甲賀市でちょっとしたトラブルがあり、それから「あなた本当に介助者ですか」と聞くことができなくなったという話を聞いております。現に私どもも、ここしばらく身体障害者手帳の提示を求められておりません。それは、何かお考えがあつてのことでしょうか。お願いします。

(事務局) 先ほど「運転手さんが注意を」ということだったんですが、やはりなかなか難しい面がありますので、申請された際に、「不正利用された場合は、申請できなくなります」などの注意事項をしっかりと伝えさせていただいて、あとは使われるご本人様の良心にまかせるという形になるかと思えます。

(会長) 他にご意見等ございませんでしょうか。

(委員) 今回、請願を議会が通したので、やらざるを得ないという状況は十分

承知した上で、今後の予想されることをお伝えいたします。

先ほどおっしゃられた通り、今回 70 歳以上の方で、時間を制限、回数を制限、次は必ず「終日使えるようにして欲しい」という請願が来ます。もう一つが、「この枚数じゃ足りないからもっとほしい」という請願が絶対きます。なぜならば、我々移動というものは、できるだけタダで、移動したいんです。これはしょうがない、そういうもんなんです。なのでそういう要望は絶対きます。もう一つ来るのが、全部タダになってきたら、「どうせタダなんだからうちの家の前にもバスを走らせてくれ、乗らんけどな」という要望が絶対きます。これが今まで、大阪府内の周辺地域で起きてきたことなんです。言うのは当然ですね、要望して通るなら要望します。こういうことが起きていることは知っておいてください。これがあと何年後かに、このまちで起こるかもしれないということは知っておいた方が絶対いいので。これは、そうなった結果バスの財政が破綻して、だったらやらない方がいいという選択も出てきますので、私はそうなって欲しくない。

今実際高校生や、昼間の買い物や、通勤に使われていて非常にコミュニティバスとして健全なまちなんです、ここは。本当に高齢者だけの乗り物ではなく、市内の本当の需要をちゃんと押さえられてると、非常にいい事例なんです。それがずっと続いて欲しいですし、よそのまちの先進事例として持続して欲しいので、どうか今回は、あくまでも高齢者の方々が車をやめるきっかけになるようにするものだということを強くお伝えいただければいいと思います。

さらに高齢者の介護予防を目的とするのであれば、ぜひその部署の方からも予算を取っていただけるように、難しいと思うんですけどね。介護予防であるならば、その介護予防をする部署が、当然このお金を補填するのが筋だと思いますので、そこはやりにくいとは思いますが、いろんな事業で支えられているので、いろんな担当のところできちんと支出ができるようにということ、それは議員さんも含めてみんなで共有していただければいいかなと思います。

以上です。

(会長)

ありがとうございます。

他にご意見等ございましたらお願いいたします。

(委員)

こういうものっていうのは、今もお話と関連するんですが、「時限」と

というのは考えられないですか。K P Gというか、運転免許の自主返納者を増やすための施策だとしたら、「増えなければやめます」とか「2年間やります、やってみて、効果がなかったらやめます」というような、最初からやめますっていうのを、こういうものに付加することっていうのはできないのかなと。

以上です。

(事務局) ありがとうございます。そういったご意見も今賜った中で、こちらとしましても、財源が必要なことにもなりますし、今後は状況を見て、またそういうことも対応していきたいと考えております。

(会長) どうぞ。

(委員) 質問を1ついたします。

今、「時限を決めて」というようなお話もあったと思うんですけども。返納された場合、一旦交通手段が固まると、それを利用し続けたいという意識になるのではないかなと思いました。実際私の父も返納をこの3月にしたんですが、まず料金とか負担する財源とかいうようなお話の以前に必要としているかどうか、すべての高齢者の方が、本当に回数券を受けに市役所に足を運ばれるかどうかだと思うんですね。そういう利用者がどれぐらいになるかっていうのは、やってみないとわかりませんし、それに背景として段々伸びるかどうかわからない。利便性に対して要望が出るというお話がありましたように、逆にそういったことが出て、ほかの利用者も利用しやすい形になれば、高齢者だけでなく、全体的な要望としていい方向に発展するかもしれない。利用者が増えるということで、きっかけになれば、1つ利用価値はあるんじゃないか。時限的にやるとかいう話に乗っかってちょっと考えたことなんですけど、そういう意味でも一度トライはしてみる価値はあるんじゃないかなというように思いました。

また9時から16時台に制限されてるところも、先ほどご説明もあったんですが、ちょっと細かいこと質問しますが、出発する時間となった場合、8時28分に出てるバスなんかは、対象にならないんでしょうか。また乗られるバス停が、9時台になってたらOKなのかとか、できたらその対象というところに一便分けるみたいな形の方が、説明としてわかりやすいかなという印象を受けました。

以上です。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

出発地点が9時台から4時台までということで対応していきたいと思っていますので、今言っていたようにわかりやすいよう、高齢者の方にご理解いただきやすいように、申請に来られた際には、抽出した形の時刻表をお渡しできるようにしたいと考えております。

今おっしゃったように、利用者が高齢者にはなりますが、利用者が増えることで、便が減少するという事はないことにもなりますので、利用者の増えることを願って、まず一度やっていきたいと考えております。それで、全然伸びないとか、増えていかないということになりましたら、また対応していきたいと考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

(会長)

他ご意見ございましたらお願いいたします。

(委員)

9月からということですので、おそらく統計は取れると思いますが、決まった時間に、年度ごとでも月ごとでも、決まった期間に何人の方に交付されたか、何枚この期間に使われたかを報告いただきますようお願いいたします。無期限ですから、すぐ使われるわけではないので、分析が難しいんでしょうけど、ぜひ報告をお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。

そういう統計を取らせていただいて、また報告させていただきたいと思っております。

(会長)

ほかにご意見等ございませんでしょうか。

(委員)

非常に難しい議題に入っているんですが、事例はすでに甲賀市の方で数年前から高齢者の無料というのは進んでやってるわけなんですけど、このデータとかを参考にして、うまく回せばいいんじゃないかと私は思います。

湖南市は、すでに数千万円の年間赤字をバスで出している訳なんですけど、今後これがどういう具合に傾いていくのかと考えると末恐ろしい金額になるんじゃないかと思っております。財源がある市は、学生を無料とか、高齢者を無料にしてもよいが、湖南市はそうではないことを知っているので、甲賀市など他の市の状況をみながら進めていただけたらと、これ

はお願いになりますますがよろしく申し上げます。

(会長) ありがとうございます。事務局の方で持ち帰りさせていただきたいと思
います。

 他にご意見ございませんでしょうか。

 ないようでしたら報告事項の二つ目に移らせていただきます。

それでは報告事項の二つ目の湖南省コミュニティバス運行実績につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき事務局より説明 (省略)

(会長) それでは、ただいまの事務局の説明につきまして、ご質問、ご意見等
ございましたら挙手をいただきまして、ご発言をお願いいたします。

 ご意見等ございませんでしょうか。

それではないようでしたら、次の議事に移らせていただきます。

 次は、協議事項に移らせていただきます。

 「予約制小型乗合自動車運行事業（案）について」事務局から説明を
お願いします。

(事務局) 資料に基づき事務局より説明 (省略)

(会長) それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問ご意見等ございましたら、
挙手の上ご発言をお願いいたします。

 こちらにつきましては協議事項でございますので、皆様から様々なご
指摘や課題のご助言等賜ればと思いますので、どうぞよろしく願
いいたします。

(委員) 観光協会の立場からの発言ですが、これは湖南市民のみが対象になる
のですか。例えば、湖南三山めぐりの時に、いつも足がなくて、バスの
便数も少なく、観光客の方が困られるんですが、そういった方にこの乗
合バスをPRしていいのかどうか、その辺も聞きたいなと思います。

(会長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 市民の方だけではなく、どなたでも乗っていただけるように考えてお

ります。

(会長) 先程挙手をされていた方、どうぞ。

(委員) ちょっと複数質問させていただきます。

まず、事業者を募集されるということですが、これは滋賀バスさんの事業の一部という形ではできないのでしょうか。これが1点です。

続いて、想定されている路線の中で、廃止されてしまったものは仕方がないんですが、今現存してるところの中に、人数少ないと思いますが、通勤通学者の方、つまり定期的に使っておられる方がおられるのでしょうか。もしおられた場合、いちいち電話して毎日予約しなきゃいけないのでしょうかということですか。

次に、もしこの事業をコミュニティバスの事業から分離するというのであれば、どれぐらいの経費の節減を期待されておられるのか、もし節減ができた場合に、その節減した部分をバスが走ってる部分の設備だとか内容の改善に利用することができるのでしょうかということをお聞きます。

最後に、これ高齢者によくあるんですが、予約しても乗らない方があるんです。タクシーをお呼びになった場合は、お家まで来られて、「ちょっと今日体調悪いので」と、そういうことができるんですが、電話せずおられない、バス停で何分も待つことができるのでしょうかという不安もありますので、これペナルティーはしたくないんですが、そういうのも含めて考えておられるのか、以上よろしくお願いします。

(会長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 滋賀バスの一部事業として対応できないかっていう部分につきましては、滋賀バスの方ともお話はさせていただいているんですが、小型という車両がないということもございまして、そういう対応ができるかということについては、今後協議を進めていきたいと思っております。ただ市内にあるタクシー会社さんの方にも、こういう事業をするということ、一度ご案内をさせていただいてる部分もありますので、その辺の経緯もございまして、募集をかけていきたいと考えています。

通勤通学者、毎日の予約の部分につきましては、決定した事業者さんと協議をさせていただいて、定期的にご利用の際は、毎日予約ではなく対応できるようにはしていきたいと考えております。ただ今までご利用

いただいている停留所での対応となりますので、ドアツードアではございませんし、今までと同じような対応でさせていただこうと考えております。

それと、コミュニティバスを廃止した経費につきましては、先ほど車両の部分も出ていましたが、車両の購入につきまして、バスを3路線減らすことで、台数を減らすことができると考えておりますので、その部分の購入費等は、削減できるかと考えているんですが、通常運行の部分につきましては、バスが減った分の経費というのが、コミュニティタクシーを運行する方に、事業費がかかってくるかと思っています。最初の方は、利用の仕方が、すぐにどう使っていいかわからないということもあって、なかなか利用が少ないかなと思ってます。2年3年と経過すると、利用者さんも便利と考えていただけるかと思しますので、そうやってきたら経費もかかってくるかと考えております。設備投資の部分につきましては、バスの購入について、数台購入が必要なバスがあるので、2台落とすことで、購入するバスを減らすことができるかなというように思います。

また、予約しておられない方につきましては、最初予約されるときに、電話予約でまず対応になるかと思うんですが、その時にお電話番号等を聞き、連絡させていただき、その時間におられない場合は、運転手さんの方からご連絡いただくか、オペレーターの方からご連絡いただくような対応をしていきたいと考えております。これにつきましては、決定した事業者さんと詳細を詰めていきたいと考えております。

以上です。

(委員)

丁寧な回答ありがとうございます。

ということは、タクシー会社さんも対象に考えておられると思います。基本的なことをお伺いしますが、これはコミュニティバスの事業のうちなんでしょうか。別の事業と考えた方がいいんでしょうか。といいますのは、先ほど予算のことで何か共同してるような印象を受けましたので、どうなのかお聞きします。タクシー会社さんも対象となると、道路運送法上の規定に合っていれば、NPO法人でも可能ということですね。

(事務局)

ありがとうございます。

対象は、バス会社も対象になりますし、平均乗車密度の低い3路線を設定していますので、バスの小型版と考えておりますので、事業としては、同じ運行事業の中で進めさせていただきたいと思っております。乗り合い

というものを重視して考えておりますので、1時間1便というような対応、乗合旅客の許可を持っておられる事業者様、タクシー運行されているところが対象になるのではないかと考えております。

(会長) 他にご質問がありましたらお願いします。

(委員) ルート、停留所等の設定についてお伺いしたいんですけども、いろんなメディアでこのような制度を実際に運営されている、成功されている事例などをマスコミとかでもよく見かけるんですが、そういった場合ですと、やはり利便性が成功の鍵というようなご説明、必ず入るんですが、割とルート上の、停留所にかかわらず乗ることができる、ドアツードアに近い形での降車ができるというような制度を取られているケースがあるんですが、今回ちょっとそれは難しいようなご説明がありましたけれども、それは何か規制されるものがあるって、停留所でないと駄目なのか、ちょっとその辺の制度的なものをもし変えられるのであれば、もっともっと柔軟な対応できないかなという意見を持ちましたが、ご説明をお願いします。

(事務局) ありがとうございます。

今、市の方で考えているのは、ドアツードアではなく、停留所から停留所という指定をさせていただいての乗り降りと考えているんですが、バスの運行事業の中で行うということもありまして、そういう対応という形を考えております。市が独自で事業を行う委託事業であれば、ドアツードアというのもあるんですが、そうしたことをしますと、やはり対応をしていただいている事業者さんもいらっしゃいますので、その辺の棲み分けを考えまして、市としてできるのは公共交通としての不特定多数がご利用いただくということをもとに考えさせていただくことで、対応したいなと思っておりますので、停留所での乗降にさせていただきたいと考えております。

(会長) 他にご意見とかご質問ございましたらお願いいたします。

(委員) 確か令和2年6月ですかね。国の方でスーパーシティ構想っていうのが法律化されたのではないかと思います。今からエントリーじゃないかなというふうに思いますけども、こういういわゆる予約制小型乗合自動車運行事業とかっていうのも確か、事例の中にもあったような気がしま

す。後期高齢者の通院対策を図るとか、それから先ほどおっしゃった、点在する観光地を巡るための、いわゆるボランティアタクシー的なもの、ボランティアポイント、地域通貨を絡めて整備させていこうと。今お出しただいてるのは、過渡期として素晴らしいと思うんですが、やっぱりゴールっていうのを、ここまでいこうよっていう湖南省としては、そういうのを、見せていただけたら嬉しいかなと、そういうふうにご利用されたら、総務省が一生懸命作って、内閣府が一生懸命作って出したものですから、利用されて検討されたらいいかなと思います。

以上です。

(会長) ありがとうございます。事務局の方で検討するということをお願いします。

(委員) 今回バス停を設置する時に、地域からの要望があれば停留所を設置するというので、その場合はぜひ地域の方で話し合っ、地域の方々が場所を決めてということ、役所主導ではなく、ほんとに自分たちで決めていただける場合は、設置できるようにしないと、多分作業がどんどん増えて大変なことになると思います。

それと、これは過渡期の制度だと思います。ドアツードアにしてしまうと、250円のタクシーになってしまうと、今あるタクシー事業者さんが破綻してしまうので、ぜひその今のタクシーもちゃんと守っていけるように、できればこれはタクシー業界、業者さんたちが、もう1つのビジネスとして成立できるように支援することもできればと思います。

やっぱり、先ほど申し上げたようなタダで移動したいんですが、やっぱり逆に考えると、「これから雨だし、誰か500円あげるから、絶対事故起こさないで、甲西駅まで送ってください」と言って、みんな手あげる人いませんので、それがやっぱり運賃なんです。なのでタクシーというのは高いと一見思うかもしれませんが、安心安全の保障があった上で、講習されてる方がやってるものですので、ドアツードアで自分の好きな時間に移動したい方はタクシーが使えますよと。今回の制度は、時間はやや不確定だけれども、しかもバス停まで歩くけれども、乗り合いだけれども、250円で行けますよという、あくまでもバスの小型版でみんなが移動していただくということだという趣旨を地域の方に理解していただきたいなということをお願いしたいと思います。

この制度をやった後にどうなるかっていうと、もちろんデマンドっていうのは、利用者少ないです。実際やっても、利用者がそんなに出ない

とか、実際今回のデータでもどうせほとんど利用がありません。その次に、意見出てきそうなのが、利用者増やそうって話になるんですけど、利用者増えていけばバスで十分なんです。なのでこれはぜひ今回の説明にあったように、いかに乗り合いの率を高めるかという、その1回の運行で2人以上、皆が乗っていただけるようなものになることを目指して、今後進めていただければというように思います。

以上です。

(会長)

ありがとうございます。

ご意見等ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、協議事項につきましては、以上となります。

皆様のご協力によりまして、円滑な議事進行をさせていただきました。ありがとうございます。

それでは、進行を事務局に戻したいと思います。事務局お願いします。

【その他】

(事務局)

会長ありがとうございました。

それでは次に、次第の3番その他になりますが、この4月、新型コロナウイルス感染症の対応として、通学定期の払い戻しと、減便を実施させていただきました。委員の皆様には、急なことではございましたが、ご連絡ご了承いただきましてありがとうございました。このことについて、担当より報告をさせていただきたいと思います。

それでは、報告させていただきます。

本日、2枚の資料を追加で置かせていただきましたので、ご覧ください。まず、通学定期券の払い戻しにつきましては、払い戻しの申請者が一斉に手続きに来られることで、密の状態になることを避けるために、4月11日を基準日としまして、払い戻し受付期間を、学校休業期間終了後10日以内とさせていただきました。実際に多くの学校で、休業期間が終了したのが5月末でしたので、6月10日まで受付をさせていただきましたが、特に窓口が混乱することなく無事終了することができました。

次に減便についてですが、緊急事態宣言が発令された状況下での通勤通学での利用者の減少、夜間の外出抑制の観点から、5月7日から31日までの期間、12便を減便させていただきました。これにつきましても無

事終了することができましたのでご報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

以上です。

そうすることで、一応こちらで対応させていただいた部分が、トラブルもなく無事終了させていただきましたのでご報告させていただきました。

これにつきまして、ご質問、ご意見等ございますか。よろしいでしょうか。

それでは最後になりましたが、先ほどからもご意見いただいておりますが、公共交通アドバイザーの先生にご出席いただいておりますので、湖南省の公共交通についてご講評いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【講評】

(委員)

先程もいくつか申し上げました通り、非常にこの湖南省のコミュニティバスというのは、よその市町さんに比べて、通勤通学そしてお出かけで利用されているという特徴を持っております。それは湖南省の人口が多くて、若い方も多いという特徴がきちっと反映されていますので、ちゃんと市内の方々がきちんと自分の生活に合わせて、公共交通を使っていくというのが確立されていけば、そんなに崩壊することはないというふうに思われます。

ただ、今後これからのコロナの後に、公共交通をどうしていくかというのは、ずっと私もよその自治体とかバス会社の方といろいろ話をしております。それでちょっとぜひ情報共有できればと思います。

非常に密が怖い、通勤が怖い、通学が怖いという、なんかそういう噂が出てますが、実際どうなのかといいますと、電車、バスはずっと換気しております。喚起していて、空気がすでに回っております。実際コロナで一番初めに出た事例は、奈良の観光バスで出ましたが、ずっと同じ場所で、換気がなくてやっているんで、感染する可能性があったと。実際普通に使っている限りでは、ほぼほぼかからないということは京大の藤井先生もおっしゃっております。しかもバス、鉄道、タクシーの事業者さんは、みんな社内の消毒をしておりますので、その点は安心なんです。ただ次に何に気を付けなきゃいけないかという、利用する我々が今までとちょっと違った動きをしなければならぬ。何かというと、乗

る際にマスクをして、車内で大声で騒がない。そのあとは、乗車後に手洗い、うがいをきちんとする。利用する側も適切なことをすることで、公共交通の車内が密であっても、コロナにかかる率はほとんどないというふうに言われております。

ですので皆さんがそんなに不安になることはないと思います。むしろ私が心配してるのは、普段怖いからといって自分で車持ってる方が、本当に車の中で換気しながら運転してるのかなとか、乗り終わった後に全部車消毒してるのかなと、そっちの方が僕不安なんです。その方がちょっと感染リスクが高まりますので、ぜひこの新しい利用の仕方というのを広げていくことで安心して今まで通り公共交通を使っていけるということをご共有したいと思います。

また実際現場ではどうなってるかと言いますと、高校の通学でも混雑します。その対応として、学校の先生に、確かに車内が密になるけれども、マスクして大声で騒がない、バスに乗った後に学校着いたら手洗いうがいをする、高校の先生が生徒さんにお伝えしたところ、全く問題なく運行していると。保護者からの苦情も全然来てませんというのがありましたので、ぜひ石部の高校生の皆さんもちょっと不安かもしれませんが、根拠がない不安というのが一番困るんですよ。風評被害みたいな。それをきちんとお伝えすることでみんなが安心して乗っていけるというのがありましたので、ぜひこのまちでもそういうことができるといふふうに思いますので、共有できればと思います。

以上です。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、次に全体を通して何かありましたらお願いします。

(委員)

例年、市民から担当部局にいろんな要望が出ている一覧のようなものを付けていただいているのですが、今回はどうでしょうか。あれがあると随分問題点がわかりやすいんですが。

(事務局)

要望の方はこちらで集計しておりますので、今回付けさせていただいてないので、今度の公共交通会議でご報告させていただきたいと思っております。

他、よろしいでしょうか。

長時間にわたりまして、ご審議いただきまして本当にありがとうございました。

本日皆様からいただきましたご意見、ご指導、参考にさせていただき、今度の小型乗合自動車運行事業を最終的に進めて参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、それ以外でも皆さん意見をいただいております。こちらも今後のよりよい公共交通体系となるように取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力よろしく願いいたします。

公共交通会議の協議については、以上となります。最後に閉会のあいさつを副会長よろしく願いいたします。

【閉会】

副会長あいさつ （省略）